

児玉エリアの にぎわいを創出 課題解決型プログラム

今年度の七高祭は、各校が一堂に会して行う合同文化祭に加えて、市が抱える地域の課題について解決策を考える「課題解決型プログラム」を実施します。

高校生たちは現在さまざまなフィールドワークに取り組んでいて、地域のヒト・モノ・コトに触れ、高校生らしいアイデアでまちをより豊かにする方法を考えています。そのアイデアや成果について、合同文化祭の場で発表、発信を行います。

今回は、この「課題解決」のひとつである、無人駅となった児玉駅の活性化を考える取組について紹介します。



JR 八高線・児玉駅は、令和3年3月に駅員が常駐しない無人駅となりました。駅舎の窓口はシャッターが下りたまま、さらに駅前には空き地や空き店舗が目立ちます。「このままではもったいない、高校生のエネルギーで、活気を取り戻したい!」と、高校生が立ち上がり、児玉エリアの魅力、八高線の魅力をより多くの方に知ってもらえるよう、東日本旅客鉄道株式会社 (JR 東日本) と協力して児玉駅周辺でのイベントを企画中です。

詳しくは、七高祭公式 Instagram や今後の広報ほんじょう等でお知らせします。

児玉駅を楽しむ

高校生プロジェクト 2023

公式 Instagram で
情報発信中!

七高祭 #4

★七高祭実行委員会事務局 (広報課内) ☎25-1614



高校生の発想を活かす

高校生が商品開発! 産学官連携プログラム

高校生プロジェクトの一環として、企業・大学と共同で商品開発を行う「産学官連携プログラム」に取り組んでいます。

今回参加する高校生は10名。今年度は、市内に工場を有する寝具メーカー・昭和西川株式会社と、県内にキャンパスを有する日本薬科大学が、高校生とタッグを組んで「枕」を開発します。睡眠や健康についての専門知識を持つ同大学の監修のもと、高校生たちのフレッシュなアイデアを活かして同社が製品化を目指すプログラムです。



↑昭和西川株式会社の工場で、羽毛布団の製造工程を見学しました。何種類もの枕の実物を用意して、構造や材質、触り心地をチェックします。実際に横になって寝心地も試してみました。

→昭和西川株式会社の担当者から枕や寝具について、日本薬科大学の教授から睡眠の重要性についてレクチャーを受けました。

来年1月開催予定の合同文化祭当日に、プログラムの成果発表を行います。お楽しみに!

